

<h1>恵那山学会ニュース</h1> <h2>第10号</h2> <p>2008-3-15</p>	 <p>セルバオウレン</p>	<p>恵那山学会 http://www.enasan.info/ 〒508-0011 岐阜県中津川市駒場 398-8 金井 方</p>
---	--	---

【定期総会通知】
 すでにお知らせしていますが、3月16日(日)午後3時から中津川市中央公民館で定期総会を開催します。恵那山学会の方向を決める重要な会議ですので、全員の出席をお願いします。

今年の植物観察計画

- 一般にも開放して、今年も植物観察会を実施します。初心者歓迎です。
- 3月16日 8:50 中津川市役所前に集合、諏訪神社の社叢(山口)、ハナノキ自生地(坂本)、八幡神社の社叢(中村)
 - 5月11日 8:00 中津川市役所前に集合、神坂峠から神坂神社(阿智村)往復
 - 7月20日 7:00 中津川市役所前に集合、広河原ルートから恵那山
 - 9月14日 8:00 中津川市役所前に集合、恵那山神坂峠ルート・追分、鳥越峠、大判山まで

【本の寄贈】
 元会員の面手勝仁氏からは昨年「恵那登山案内」をお贈りいただきましたが、このたび、更に下記の蔵書を寄贈していただきましたので、ご紹介します。
 (1) 恵那神社誌 初版本(梅村薫著)(ほとんど残っていない貴重な本です) ホームページで公開できるようにしたいと思います。
 (2) アルプ 267 1980-5(串田孫一の恵那山登山の文が載っています)

<p>催し物案内</p>	<p align="center">第22回私の展示室(野草散策の会) 「恵那山麓キンポウゲの仲間たち」</p> <p>場所：中津川市鉱物博物館企画展示室 会期：3月26日(水)～5月11日(日) 説明会：4月6日(日)13:30～</p> <p>キンポウゲは、世界中で約50属1500種あるとされています。草本からつる性のものもあり、クレマチス、アネモネ、福寿草などの観賞用に栽培されているものや、花びらが退化してガクが花弁状になっているものもあります。キンポウゲ科には、トリカブトなどの毒性植物が多くありますが、反面薬用にも多く利用されています。野草散策の会の皆さんが、これまで恵那山麓で調べられた約30種を写真とビデオで紹介されます。ご期待ください。(中津川市博物館だより Vol.8, NO.4)</p>
	<p>「野草の自然誌」(永田武正著講談社学術文庫)に、金田一春彦宛の手紙形式で「キンポウゲ科の賦」(花の高等と下等)という短文があります。その中で田村道夫の言葉を引用しています。</p> <p align="center">「古い特徴を保ちながら最も高いレベルまで進化した群で、きわめて多様である」</p> <p>フクジュソウ、ミスミソウ、スハマソウ、セツブンソウ、セルバオウレン、バイカオウレン、イチリンソウにニリンソウ……。キンポウゲ科はスプリング・エフェメラルの代表です。</p> <p>キンポウゲ科は花弁が退化(?)し、ガクが花びらのようになっているものがたくさんありますが、このところを永田先生は次のように書いています。</p> <p>「この花(レンゲショウマ)はガクも花弁も同じ美しい淡紅色で同じように見えますが、一番大きな萼がいち、花弁には蜜腺があることです。そのつもりでみていると、この科の花弁はどれもこれも蜜を分泌します」「この科に関する限り、ガクと花弁は起源が違い、蜜腺のないものは美しい色があっても花弁とは考えられぬわけです」</p> <p align="center">この展示会で色々なことが解りそうです。 (金井)</p>

植えてはいけないシデコブシ 2

上杉 毅

前回はシデコブシの遺伝子保護について述べたが、昨年11月末に環境省が取りまとめた『第三次生物多様性国家戦略』で貫かれているのは単なる種の保存ではなく、すべての生物の多様性を保存するために種レベルよりさらに踏み込んで、すべての遺伝子を保存するという思想である。『生物多様性国家戦略』であって『種の多様性国家戦略』ではない所以である。遺伝子の研究は急速に進んでいるが、ゲノムの解読が行われているのはヒトやイネなどまだほんの一部で、そこに含まれる遺伝子の働きの解明もほとんどこれからの課題である。その解明をすすめて、他方でそれらが失われないようにすることは遺伝子に関する戦略の両輪といえる。

それではどのように保護を図ればいいのか。愛知県にはシデコブシに限らず、ハナノキやヒトツバタゴなど絶滅危惧種を街路樹として植えてしまう性癖がある。名古屋市繁华街、栄にシデコブシは植えられている。岐阜県でも美濃坂本駅の北に街路樹として植栽されている。むろん庭木としての利用も盛んである。しかしそれらが花の後、種子を落とし、そこから次世代が芽生えた例はない。シデコブシの発芽と成長には湿地的な環境が不可欠である。道路際や民家の庭で繁殖できるはずがなく、それらは枯れたらそれまでである。ちなみに名古屋市の栄のシデコブシを私は10年来観察しているが、本来の花期である4月に咲かず、夏から咲き、その後すぐに落葉してしまう。本来の生息環境にないことが生理的なストレスになっていると考えられる。

もう少しまとめた施設、たとえば植物園や動物園、研究機関などで収容するとしても種や個体数は限られ、自然界にあるほとんどの遺伝子が保護の対象から外れることは避けられない。もし対象に入ったとしても国家的な取り組みをもってしても絶滅から救えなかったトキの例を見れば、種の

保護の難しさは容易に理解できるだろう。

したがって遺伝子を保存するためのまっとうな戦術は保護を必要としないレベルに自然界での個体群を維持しておくことであり、そのためにはすでに存在している自生地を保護することに尽きる。自生地はその種が累代存続していくための環境が整っていることが事実によって証明されているのだから、人がいまさら何かをする必要はない。

愛知万博の開催地を巡る一連の騒動の中で、シデコブシの保護のために会場候補地が変えられようとしていたとき、愛知県庁のある役人が「シデコブシは県庁の近くにもあるのに」と述べたという。「都市部にも植えられていて、個体数も少ないのに、まだ保護が必要なのか」という意味だったとしたら、この役人の頭の中には種の保護しかなかったことになる。

さて、栄の丸善の北側に植えられたシデコブシでは面白い現象が見られている。観察を始めて1年ほどのころ根元から一本の株が伸び始めたのである。シデコブシの株は地面の生え際から何本も立ち上がるのが普通だから、それ自体は珍しいことではない。しかしこの株はシデコブシらしくない。いますぐに伸びる形質と、これもシデコブシらしくない幅の広い葉を伴っていたのである。花が咲かないので断定はしないが、どうみてもコブシ *Magnolia praecocissima* Koidz. である。いまではもとの主幹より第二の主幹が大きくなっている。

なぜシデコブシの根元からコブシが生えたのか。おそらくシデコブシを街路樹として利用する際に、台木としてコブシを使い、それにシデコブシを接木していたのであろう。街路樹としての利用するにはシデコブシが湿地の植物であって概して水を吸い上げる力が弱いことを補ったり、何本も株を立ち上げる形質を抑えたりするためにコブシに接木したのであろう。

大正6年5月の恵那山登山記

2、いざ山頂へ

田畑真一

神の加護を願った場所であるが、これは数多くの石段を登りつめたところにある遥拝殿だったに違いない。遥拝殿だから、というのがその理由だ。梅村高司氏（恵那神社宮司）によれば、明治時代にも、すでに遥拝殿はあったとのこと。梅村家に伝わる言い伝えだ。



大正時代の恵那神社前宮の遥拝殿
 (「恵那登山案内」による)(恵那山学会提供)

翌日、長谷川らは宿を出発。出発時の記事だ。

「誰も案内に行くものがありませんから、私が行ける所までお供しますと言うので、宿の青年を伴って出かけたのは6時だった。梨の白い花や桃の紅い花、山吹の黄色な花を路傍に眺め乍ら、幾つかの山の端を廻って中津川の支流を渡れば、しばらく草原を歩いて後、路は闊葉樹の多い森林帯にと入って行く。(田畑注、中略) 鶯の嬌音に交じって梟の重々しい気味の悪い鳴き声が何処からともなく響いて来る。さっきは自分達よりも高かった隣の山々が次第に低くなっていくのに、言い知れない喜びを感じ乍ら、笹を分け木の下路を通して小1時間登った時、ふと左手に当たって、おぼろげ乍ら真白な御岳の姿が我が目に映じた時は、どんなに嬉しかったろう。(田畑注、中略) かくしてしばらく笹の間を登れば、自分の好きな白樺が3,4本他の闊葉樹に立ち交じって居るのを見て間もなく中の小屋に達した。こゝは9合目と10合目との間である。時に8時半、路が小屋の中央をつらぬいて居るのも御岳式だ。小屋の背後には不動明王の像が安置されて居る。木かげや岩のかけには残雪が白い」

山中の地名であり、場所である「物見の松」や「空八丁」も通過。やがて山頂へ。

「かくして雪に滑り乍らもこの美しい雪の林を辿れば、間もなく眼前に現れた頂上の神社。もはや幾何もない。足は自らに早い。11時半頃には2棟の小屋に着いたが休む暇もなく頂上を指して急ぐ。11時40分には遂に頂上に達した。永い間あこがれて居た恵那山頂に立ったのだ。然かも雪白き山頂に(田畑注、中略)自分達は再び神社の前に集まって、天皇陛下万歳を3唱した」

下山時にも、恵那山への思いが。それも切々として。

「嗚呼、恵那の山頂を、美しい雪の林をも今は去るのかと思うと誠に名残り惜しい」

とはいえ、里へと降り立った。記事には「その後は木曾福島へ行って、泊まった。翌日は福島から、上松まで木曾川に沿って進み、雪白い駒(田畑注、木曾駒ヶ岳)を雪間から見て胸をおどらせ、更に寢覚の床に遊んで、帰省(田畑注、名古屋へ)した」とある。

<別記> 引用文の漢字を新字体に、かなを現代のものに書き改めた。また、適宜、句読点を付した。(日本山岳会資料映像委員)



残雪の原生林(金井孝素氏撮影)

恵那山画展の案内

前田青邨や熊谷守一など高名な画家を輩出しているせいか、恵那山の麓の町、中津川にはアマチュア画家が多いようです。中津川には恵那山を描かなかった画家はいないのではないのでしょうか。今年も絵画展が相次いで開催されています。地元の人々が恵那山に寄せる思いが伝わってくるようです。

主催者の一言を添えて紹介します。(金井)

吉村勉油絵展「恵那山の四季」 3月5日から3月11日まで

この度「中津川の中電ギャラリー」にて油絵展を開催します。今回は平成11年から「恵那山の四季」をテーマに書き始め100枚を達成しました。

その記念として新作40枚を展示しますのでご高覧の上、ご指導賜りたくご案内申し上げます。

加藤縦一絵画展 3月19日(水)~3月25日(火)中電ギャラリー(JR中津川駅西)

日々刻々と装いを変えゆく故郷の山・恵那山をそれぞれの場所より、自分流に気持ちこめて描いてみました。素朴で、ゆったりした雰囲気が出ていれば幸いです。

岩石の分類と名前 (藪睨みの解説) (2)

金井 孝素

岩石の分類体系

岩石の分類は成因によって、火成岩、堆積岩、変成岩の三つに分類することが一般に定着している。しかし、火山でできた火山灰や火砕砕屑物は火成岩と堆積岩のどちらに入るか迷うところである。つまり、火成岩、堆積岩、変成岩という分類単位は排他的ではないので単純に考えると分類ではないのである。

火成岩のレベル2は、マグマが凝固した深さによって、火山岩、半深成岩、深成岩に分類される。ところが典型的な深成岩と同じような岩石がかなり浅いところでも出来ることがある。だから、レベル1と同じように厳密な分類基準ではない。

岩石の分類は人為的なものである。人為的なものであれば分類基準が確立していなければ、分類する人の数だけ勝手な分類基準があることになるので、権威ある機関で、「これだ」というものを決めてもらわなければ素人は混乱するばかりである。これは標準化の問題になるが、「フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』」の岩石の一覧を引用しておく。ただし、L1、L2、・・・などのレベル番号は筆者がつけたものである。また、レベル4以下は省略してある。

岩石の一覧

岩石は大きく火成岩、堆積岩、変成岩の3種に分類できる。しかし、その境界は不明瞭で、あくまで人為的なものである。それぞれを細分した場合の境界も同様であり、定義によって岩石名が変わる。

L1 火成岩 (igneous rock) は、マグマが固まってできた岩石。

L2 火山岩 (volcanic rock、噴出岩)

- L3 流紋岩 (rhyolite) / 石英粗面岩 (liparite)
- L3 粗面岩 (trachyte、トラカイト)
- L3 粗面安山岩 (trachyandesite) / ラタイト (latite)
- L3 デイサイト (dacite、石英安山岩)
- L3 安山岩 (andesite)
- L3 玄武岩 (basalt)
- L3 コマチアイト (komatiite)
- L3 響岩 (phonolite、フォノライト)

L2 半深成岩 (hypabyssal rock、脈岩)

- L3 斑岩 (porphyry、ボーファイア)
- L3 珪長岩 (felsite、フェルサイト)
- L3 アプライト (aplite、半花崗岩)
- L3 ペグマタイト (pegmatite、巨晶花崗岩)
- L3 ひん岩 (porphyrite)
- L3 ドレライト (dolerite、粗粒玄武岩) / 輝緑岩 (diabase、ダイアベース)

L3 ランプロファイアー (lamprophyre、煌斑岩)

L2 深成岩 (plutonic rock)

- L3 花崗岩 (granite)
- L3 閃長岩 (syenite)
- L3 モンゾニ岩 (monzonite)
- L3 花崗閃緑岩 (granodiorite)
- L3 トータル岩 (tonalite)
- L3 閃緑岩 (diorite)
- L3 斑輝岩 (gabbro)
- L3 榭輝岩 (peridotite)
- L3 輝石岩 (輝岩、pyroxenite、パイロクシナイト)
- L3 角閃石岩 (hornblendite)
- L3 蛇紋岩 (serpentinite)
- L3 蛇灰岩 (ophicalcite)
- L3 カーボナタイト (carbonatite)
- L3 斜長岩 (anorthosite、アノーンサイト)
- L3 準長石閃長岩

L1 堆積岩 (sedimentary rock) は、堆積物が凝成作用を受けてできた岩石。

L2 砕屑岩 (clastic rock)

- L3 礫岩 (conglomerate)
- L3 角礫岩 (breccia)
- L3 砂岩 (sandstone)
- L3 泥岩 (mudstone)

L3 頁岩 (shale、シェール)

L3 粘板岩 (slate、スレート)

L2 火山砕屑岩 (火砕岩、pyroclastic rock)

- L3 集塊岩 (凝灰集塊岩、agglomerate)
- L3 火山角礫岩 (volcanic breccia)
- L3 凝灰角礫岩 (tuff breccia)
- L3 ラピリストーン (lapillistone)
- L3 火山礫凝灰岩 (lapilli tuff)
- L3 凝灰岩 (tuff)

L2 生物岩 (生物的沈殿岩)

- L3 石灰岩 (limestone)
- L3 苦灰岩 (dolostone、ドロマイト、白雲岩)
- L3 チャート (chert)
- L3 珪藻土 (diatomite)
- L3 ストロマトライト (stromatolite)
- L3 石炭 (coal)
- L3 琥珀 (amber)

L2 化学的沈殿岩

- L3 石灰岩 (limestone)
- L3 苦灰岩 (dolostone、ドロマイト、白雲岩)
- L3 チャート (chert)

L2 蒸発岩 (evaporite)

- L3 岩塩 (halite)
- L3 石膏 (gypsum)

L1 変成岩 (metamorphic rock) は、既存の岩石が変成作用を受けてできた岩石。

L2 接触変成岩 (contact metamorphic rock、熱変成岩)

- L3 ホルンフェルス (hornfels)
- L3 結晶質石灰岩 (crystalline limestone) / 大理石 (marble)
- L3 珪岩 (quartzite)
- L3 スカルン (skarn)
- L3 直閃石重晶石岩 (anthophyllite cordierite rock)
- L3 グライゼン (greisen、英雲岩)

L2 広域変成岩 (regional metamorphic rock)

- L3 千枚岩 (phyllite)
- L3 結晶片岩 (片岩、schist)
- L3 片麻岩 (gneiss)
- L3 ミグマタイト (migmatite)
- L3 角閃岩 (amphibolite)
- L3 グラニュライト (granulite、白粒岩)
- L3 エクロジャイト (eclogite、榭輝岩)

L2 動力変成岩 (dynamic metamorphic rock)

- L3 圧砕岩 (mylonite、マイロナイト)

察するところ、素人に分かり易くするために、一層分り難くなってしまうこともあるようだ。次号ではその辺りの疑問を解いてみたい。